

すぐに使える

『ユニバーサルデザイン授業』の工夫

～通常学級での実践ヒント集～

Tel : 0772-22-2175

HP : <http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-k/>



ユニバーサルデザイン授業

平成 26 年度 3 月号

京都府丹後教育局

Fax : 0772-22-0479

この便りは、丹後特別支援教育研究会の協力を得て作成しております。

来年度に向けての準備の時期です！

各校では、連絡会等で来年度の入学児童生徒の引継ぎが進んでいます。各校（園）で特別な配慮・支援によりサポートしていた幼児児童生徒は、より丁寧な引継ぎを行い、新しい学校生活をスムーズにスタートできるように備えておくことが大切です。そこで、とりわけ入学当初に予想される児童生徒のつまずきに対応し、安心した学校生活を送ることができるように、児童生徒の実態と園や学校で行っていた支援内容や支援方法を入学先の学校に引き継ぐツールの一つに**移行支援シート**があります。しかし、作成をするにあたり次のような不安はないでしょうか？

移行支援シートの作成は時間がかかりそうだ。

どんなことを書いたらよいのだろうか？



保護者の理解が得られるのだろうか。

アセスメント票や個別の指導計画とどう違うの？

確かな架け橋で 楽しい学校生活のスタート

移行支援シートの作成は、卒園・卒業、入学の節目に幼児児童生徒の成長を振り返り、更なる成長を願って、担任や特別支援教育コーディネーターが保護者と一緒に作成することが望めます。更に、作成した移行支援シートを基に、入学先の教職員と顔を合わせて話す機会を持つことで、よりきめ細やかな支援のボタンが切れ目なくつながると言えます。保育所・幼稚園から高等学校等まで、それぞれの移行期に沿った移行支援シートがあります。

移行支援シートを活用した感想



保護者：「こんなに丁寧に対応してもらえないと思いませんでした。我が子のことを少しでも知ってもらえて安心しました。また、不安な面もありますが頑張れそうです。」



6年担任：「中学校の先生から具体的なアドバイスや支援を聞かせてもらって、送り出す側として安心しました。」



中学校：「具体的な話が聞けて、小学校での支援の様子やこれから予想される中学校でのつまずきがイメージできました。」

簡潔に記入できる・読んで分かりやすく・すぐに役に立つ

丹後教育局では、丹後特別支援教育研究会の協力を得て、京都府の移行支援シートをモデルにしながら、引継ぎ項目や記入欄の検討を行い、以下の点を工夫し移行支援シートを作成しています。

引継ぎ項目が書いてあるので、引継ぎポイントを絞って簡潔に記入できます。受け取った学校も実態把握がしやすいです。

項目に沿いながら懇談を進めると、課題だけでなく成長も確かめやすく、引継ぐ内容がより明確になります。

小学校から中学校、中学校から高等学校等へのシートには、出席状況の記入欄があり、前籍校での出席状況が把握できます。

小学校から中学校、中学校から高等学校等への移行支援シートには、児童生徒自身が記入する用紙があり、入学前の不安と期待などの整理ができます。

中学校から高等学校等への移行支援シートには、交通機関の利用状況についての記入欄があります。

「移行支援シート（丹後）」（仮称）の詳細は「丹後の特別支援教育 NEWS」（H27. 3 発行予定）で紹介します。

小学校

4月はすぐそこ！！～入学・進級に当たって～

幼児児童について、保育所・幼稚園からの情報や今年度の状況を全教職員で共有することが大切です。

<注意集中が苦手な児童への有効な話の聞かせ方>

楽しく明るいムードを大切に！

- ・「こっちを向きなさい」よりも… →「おへそを先生に向けましょう。」
「これ何本？」と言って指を出してすぐ引っ込める。
- ・「しずかにしなさい」よりも… →手遊びや体操をして注目させてから話し始める。
朝一番に絵本を読んで、その流れで朝の会を始める。
- ・「だまって聞きなさい」よりも… →「大事なことを2つ言います。」
「クイズです！分かった人は黙って手を挙げて待っていてね。」

<前向きな姿勢を育てる言葉かけ>

「どうしたらよいか」を示しましょう！

- ・「廊下は走ったらダメ！」よりも… →「廊下は歩く。走ってよいのはグラウンド。(合い言葉として)」
- ・「何回言ったら分かるの？」よりも… →「どうしたらできるかなあ。先生と一緒に考えよう！」
「今度はこうしてごらん。」「できたらいいね。応援しているよ！」

<集中しやすい授業をつくる>

今は何をするときかを明確にしましょう！

- ・45分間で教える内容を10～15分の短いユニットに分け、集中を持続できるようにする。
- ・毎時間、数分でも全員が黙々と集中して取り組む活動を入れる。静かで落ち着いた雰囲気よさを実感させる。そのためには全員の協力が必要なことを確認し合う。

中学校

新年度を迎えるにあたって準備すべきこと

| 時期 | 考えられる状況や課題 | 引継ぎに有効な手立てや配慮 |
|-------------------------------------|---|--|
| 小6 ～ 中1 | 中一ギャップと言われるように、 6年間積み上げた経験やパターンが大きく変化 することで、不安が大きくなりやすく、中学校での生活に慣れるまで 本人にとって大きなストレス となったり、 不安定 になりやすい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との丁寧な引継ぎ 小学校の担任の先生との面談などはもちろん、後で再確認できるためにも移行支援シートを活用するなど文書での引継ぎが有効である。個別の教育支援計画などを引き継ぐ。 ・ 保護者との面談 保護者が不安に思っておられることや本人の特徴的な行動、得意なことなどを事前に把握しておくことで対応がしやすくなる。 ・ 校舎見学や入学式の予行 希望があれば、事前に中学校の様子を実際に見たり、式場が準備された後に予行練習を行うなど、当日の不安を取り除く配慮を行う。 |
| 中1 ～ 中2 ・ 中2 ～ 中3 | クラス替えや担任が変わるなど、 人間関係の大きな変化 や 学級内のルールの変更 などが起こりうる可能性がある。 うまくいっていた支援が途切れたり、配慮がなくならないように 校内での引継ぎ が必要になる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級編制の中でできる配慮を 周りの生徒とのトラブルなど、うまくいかなかった人間関係にこだわらず、新しいスタートが切れるような学級編制を積極的に行う。本人が手本にできたり、親しい生徒を配置したり、上手に関係が結べる生徒と一緒にするなどの配慮をしっかりと行う。 ・ 担任の支援・配慮・学級経営の工夫などを引き継ぐ 学級の中でうまくいった支援や配慮は、次の学年にも引き継いでいく。学級や学年でルールを統一し、だれが担任になっても同じルールで生活ができる環境をつくることも有効である。 |
| 中3 ～ 卒業後 | 3年間の成長の中で様々な課題に対処する力は育ってきているが、 人間関係も広範囲に広がり周りの理解や手助けが得られない ことも多い。学校生活の パターンも大きく変化 する可能性が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後の進路選択について保護者と本人との丁寧な面談を 入学後も学習にしっかりついていけるか、学校生活での不安はないか、通学はどうかなど、学校見学会などでも有効に活用し、早くから保護者や高等学校等との連携を行う。 ・ 移行支援シートや支援ファイルを活用し、高等学校等への引継ぎを 高等学校等への支援の引継ぎをしっかりと行う。作成した個別の教育支援計画などはもとより、移行支援シートや支援ファイルなどのツールを有効に活用し支援を引き継ぐ。大学入試での合理的配慮の提供にもつながる。 |